

道の駅「田野駅屋」再整備にかかる基本計画

集い・学び・楽しみながら
あらゆる世代が活躍できる道の駅



令和 6 年 5 月

田 野 町

目次

第1章 道の駅「田野駅屋」再整備の目的	1
1-1 道の駅「田野駅屋」再整備にかかる検討の背景.....	1
1-2 田野町の現状と課題	2
1-3 道の駅「田野駅屋」再整備の方向性と基本計画の位置づけ	9
第2章 道の駅再整備に関する前提条件の整理	10
2-1 道の駅の概要.....	10
2-2 近年の道の駅の動向	12
第3章 道の駅「田野駅屋」再整備基本計画策定のプロセス	14
3-1 道の駅「田野駅屋」再整備基本計画策定検討委員会.....	14
3-2 住民ニーズ調査	15
3-3 事業者サウンディング調査の実施結果	25
3-4 導入機能の整理.....	28
3-5 再整備のコンセプト・基本指針.....	31
第4章 施設の計画	32
4-1 道の駅「田野駅屋」への導入が想定される機能・施設の整理	32
4-2 導入機能・規模の検討	46
第5章 施設整備の検討	57
5-1 敷地の検討.....	57
5-2 排水対策.....	58
5-3 機能関係図.....	61
5-4 施設配置の考え方・鳥瞰図	63
5-5 各案の比較.....	66
第6章 道の駅の整備・運営方針の検討	67
6-1 管理運営手法の検討について.....	67
6-2 定量的・定性的な評価について.....	71
第7章 今後の事業計画	73
7-1 概算事業費と今後のスケジュール	73
7-2 今後の事業計画上の課題	76
資料編	77

第1章 道の駅「田野駅屋」再整備の目的

1-1 道の駅「田野駅屋」再整備にかかる検討の背景

高知県安芸郡田野町にある道の駅「田野駅屋」は、高知県東部のほぼ中心に位置し、2003年（平成15年）7月13日に開駅し、20年が経過した。この間、道の駅は全国で1,213駅（2024（令和6）年2月現在）となり、経済・生活、観光振興等の面において、今や私たちの生活に無くてはならない存在になっている。その一方で、社会情勢の変化やニーズの多様化、交通ネットワーク整備の発展、インバウンド需要の高まりなど、「田野駅屋」を含めた道の駅を取り巻く環境は大きく変化している。

道の駅が担う「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」、災害時や非常時における「防災機能」は、今後もその役割が増していくものと考えるほか、現在では、道の駅そのものが観光目的地の一つであり、地方創生の拠点と位置づけられるなど、その重要性もますます高まってきている。

また、道の駅「田野駅屋」は、中芸エリアの交通網の大動脈である国道55号沿いに位置し、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線田野駅とも隣接しており、鉄道駅と道の駅と一体化した構造となっていることや、計画が進む「阿南安芸自動車道」において、本町へのインターチェンジの設置が確定しており、今後はこの強みを生かし、新たに地域外から「もの・ひと・かね」を流入させるための取り組みが求められているほか、災害時においては物資の集積・輸送の拠点としての役割も期待されている。

そのような中、今後の地域・産業振興や観光振興にとって重要な役割を担う道の駅「田野駅屋」のハード面の課題・問題点として、20年経過に伴う施設の老朽化や「直販施設」を含む駅舎全体の空間が狭小であることによる回遊性の低さ、そして何より駐車スペースが不足していることによる入込客数の伸び悩みなどが挙げられる。

以上の背景から、道の駅施設の魅力や利便性の向上を図り、交流人口の拡大、賑わいの創出に寄与することを目指して、道の駅「田野駅屋」の再整備を検討することとなった。

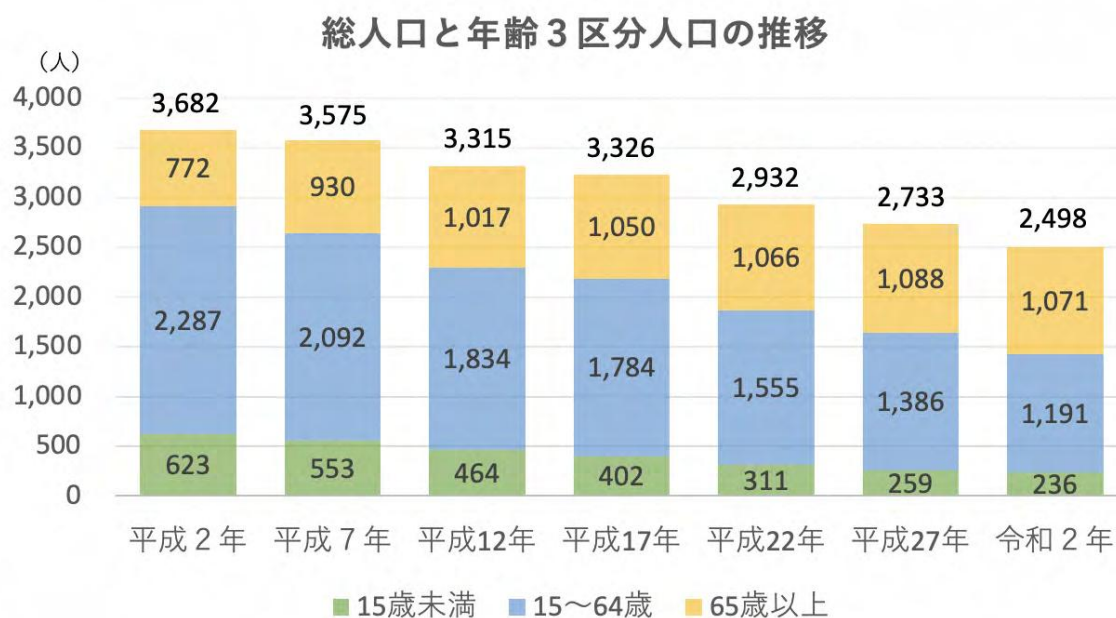


1-2 田野町の現状と課題

(1) 総人口と年齢3区分の推移

総人口について、国勢調査より平成2年からの推移をみると、令和2年まで一貫して減少しており、令和2年の確定値では、総人口が2,498人となり、高知県の推計(2,516人)を下回る結果となった。

また、人口を年少人口(15歳未満)、生産年齢人口(15歳~64歳)、高齢人口(65歳以上)に分けて推移をみた場合、年少人口、生産年齢人口の割合も一貫して減少しており、一方で高齢人口の割合は増加し続けている。人口減少は、田野町だけではなく、日本全体の現象であるため、少しでも魅力的な雇用や居住環境を整えていくことでその減少傾向を緩やかにしていくことが重要になる。

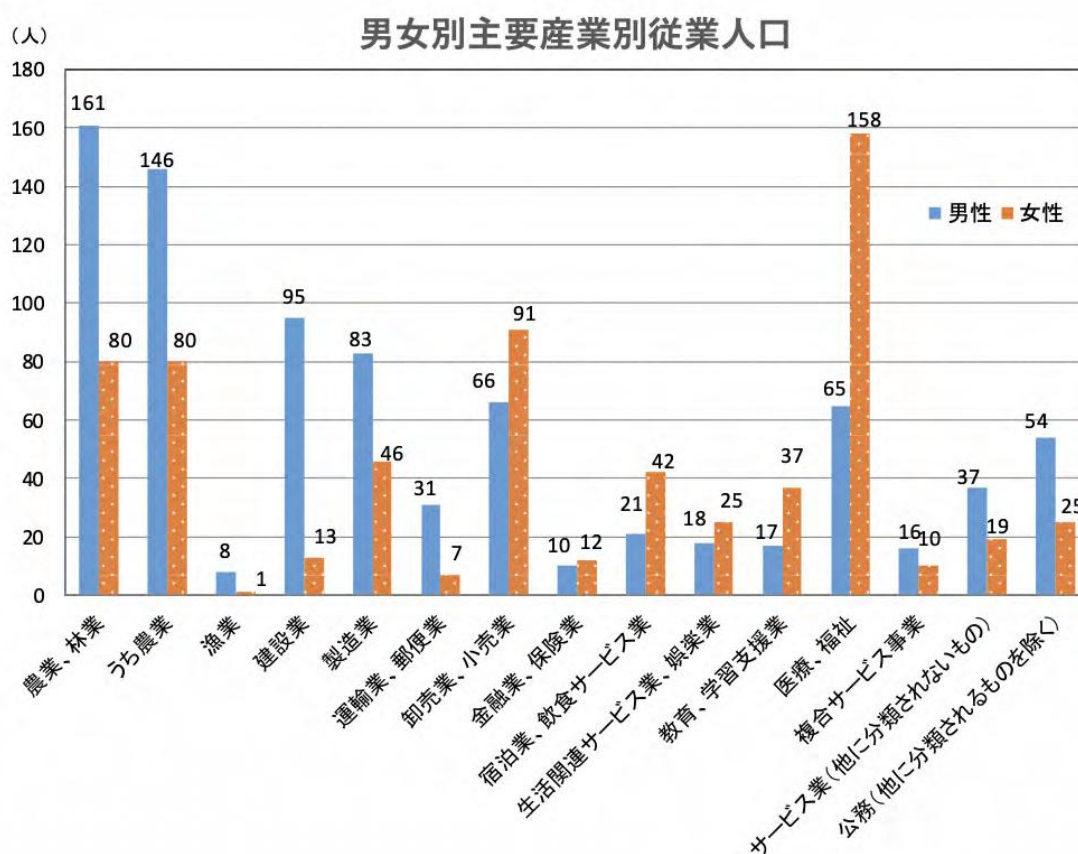


出典：田野町総合計画・総合戦略より

(2) 雇用の状況・産業の特徴

町内に在住している男女別の主要産業別従業人口（男女合計 20 人以上の産業、ただし漁業は提示）についてみると、男性では農業が最も多く 146 人、次いで建設業 95 人、製造業 83 人と続き、女性では医療・福祉が最も多く 158 人、次いで卸売業・小売業が 91 人、農業 80 人と続いている。

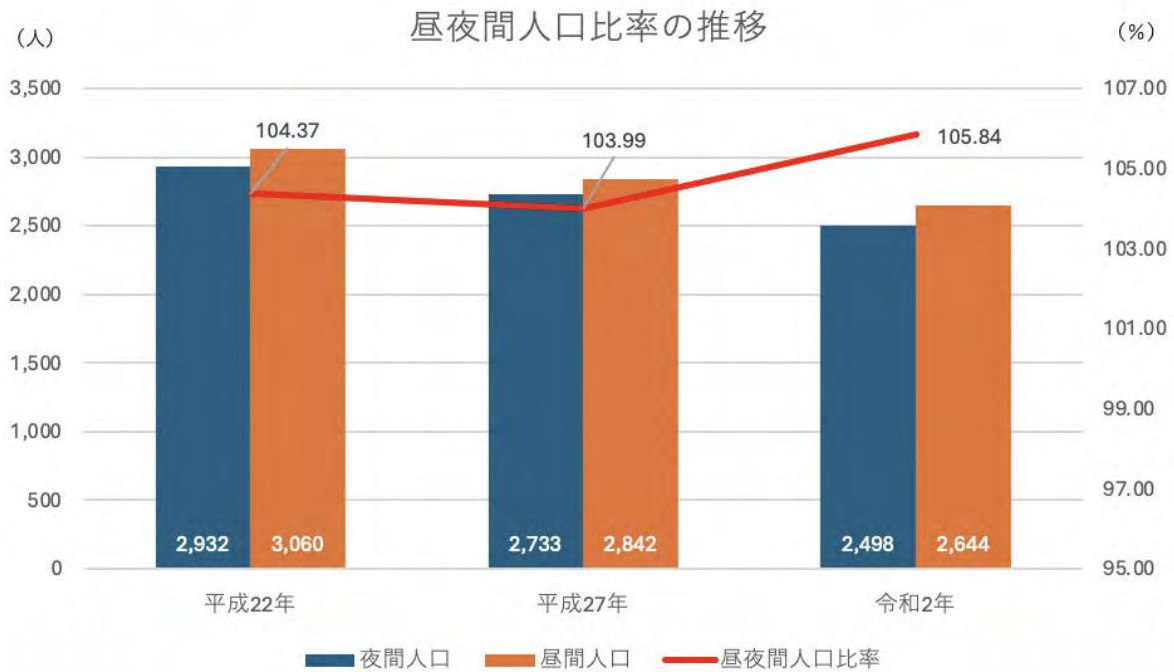
男性は農業、漁業、複合サービス事業が高く、女性は農業、複合サービス事業が高くなっている。



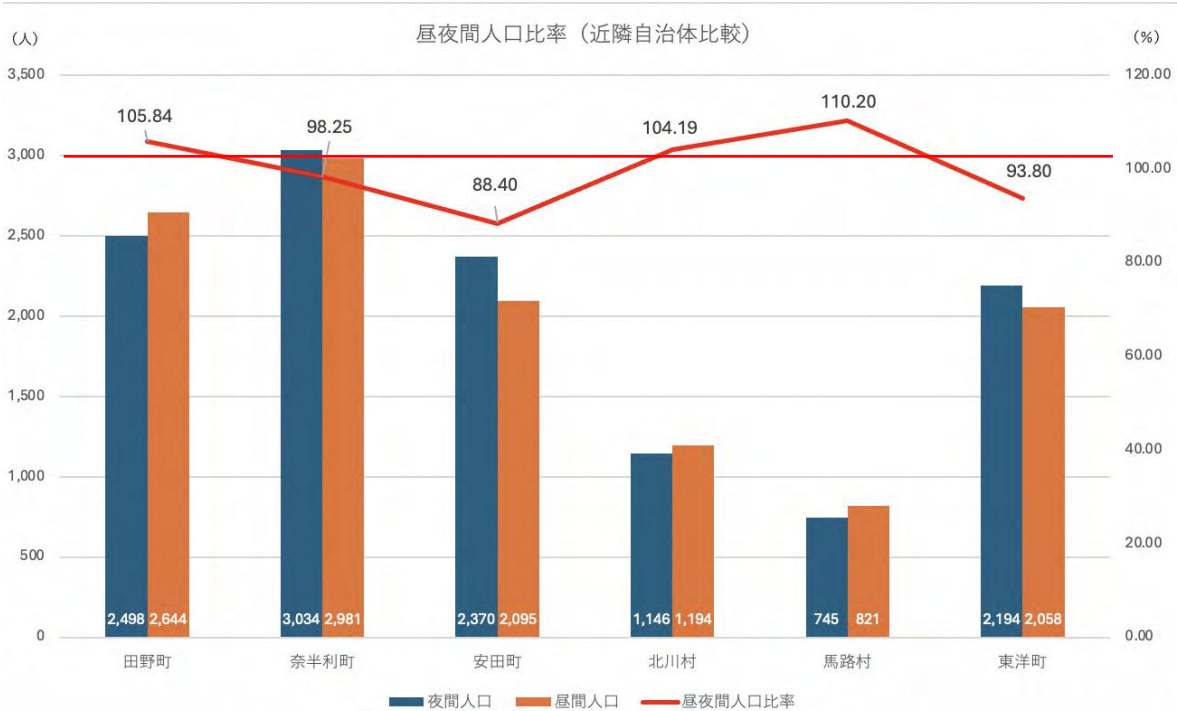
出典：田野町総合計画・総合戦略より

(3) 昼夜間人口比率

昼夜間人口比率は、昼間人口を夜間人口で除して算出される値であり、100 を超えていると、就業等により昼間に町外から人を集めているといえる。本町は一貫して昼間人口の方が多く、周辺から人が集まってくる地域であるといえる。また、近隣自治体と比較しても、昼間人口が多い自治体であるといえる。



出典：国勢調査より

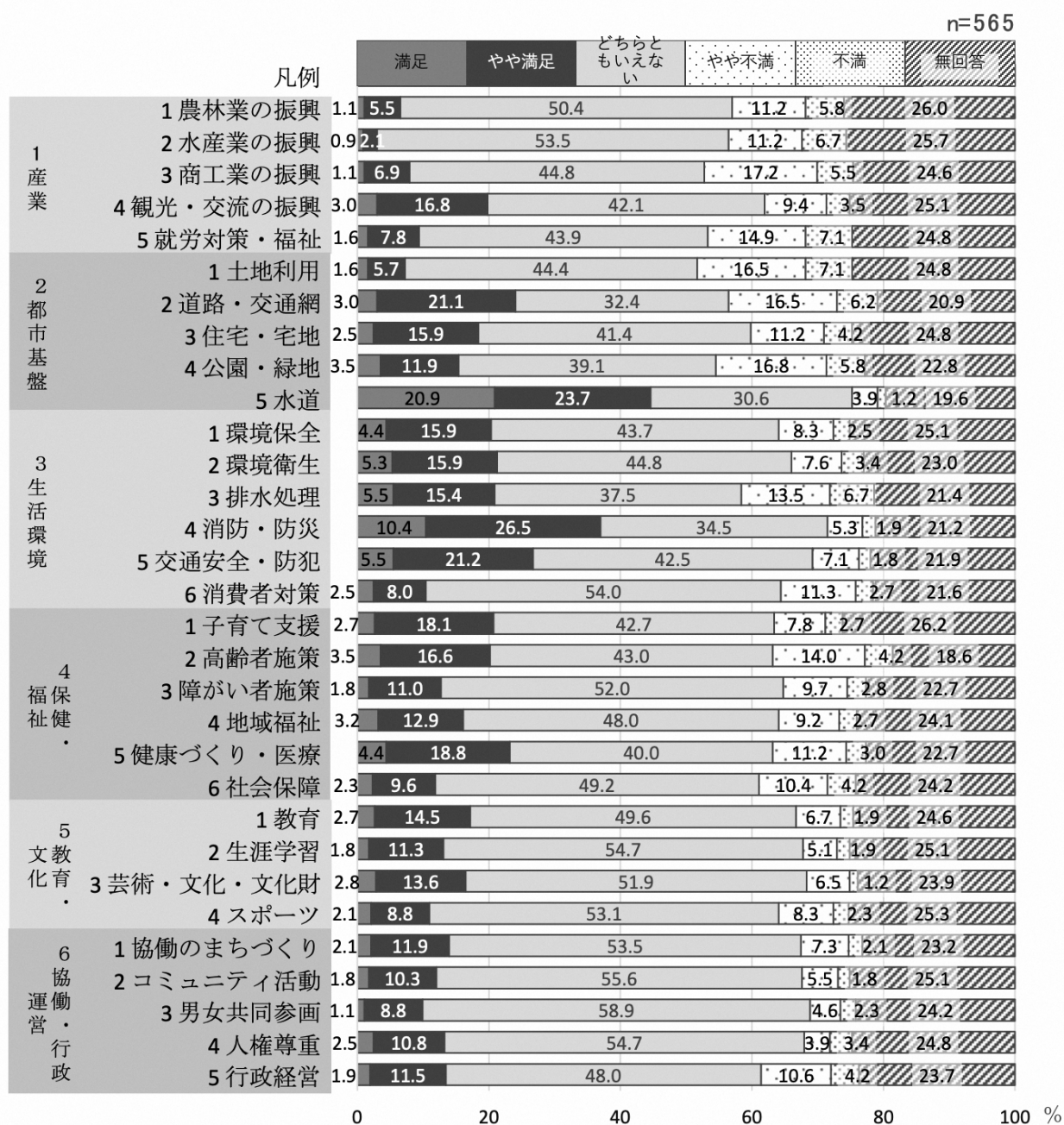


出典：国勢調査より

(4) 田野町が取り組む施策についての満足度

全施策のうち、「満足」と「やや満足」を合わせた満足度の高い施策は、「水道」で 44.6%、次いで「消防・防災」が 36.9%、「交通安全・防犯」が 26.7%となっている。逆に「やや不満」と「不満」を合わせた不満度の高い施策は「土地利用」で 23.6%、次いで同率で「商工業の振興」「道路・交通網」「公園・緑地」で 22.6%となっている。

田野町の各施策への満足度



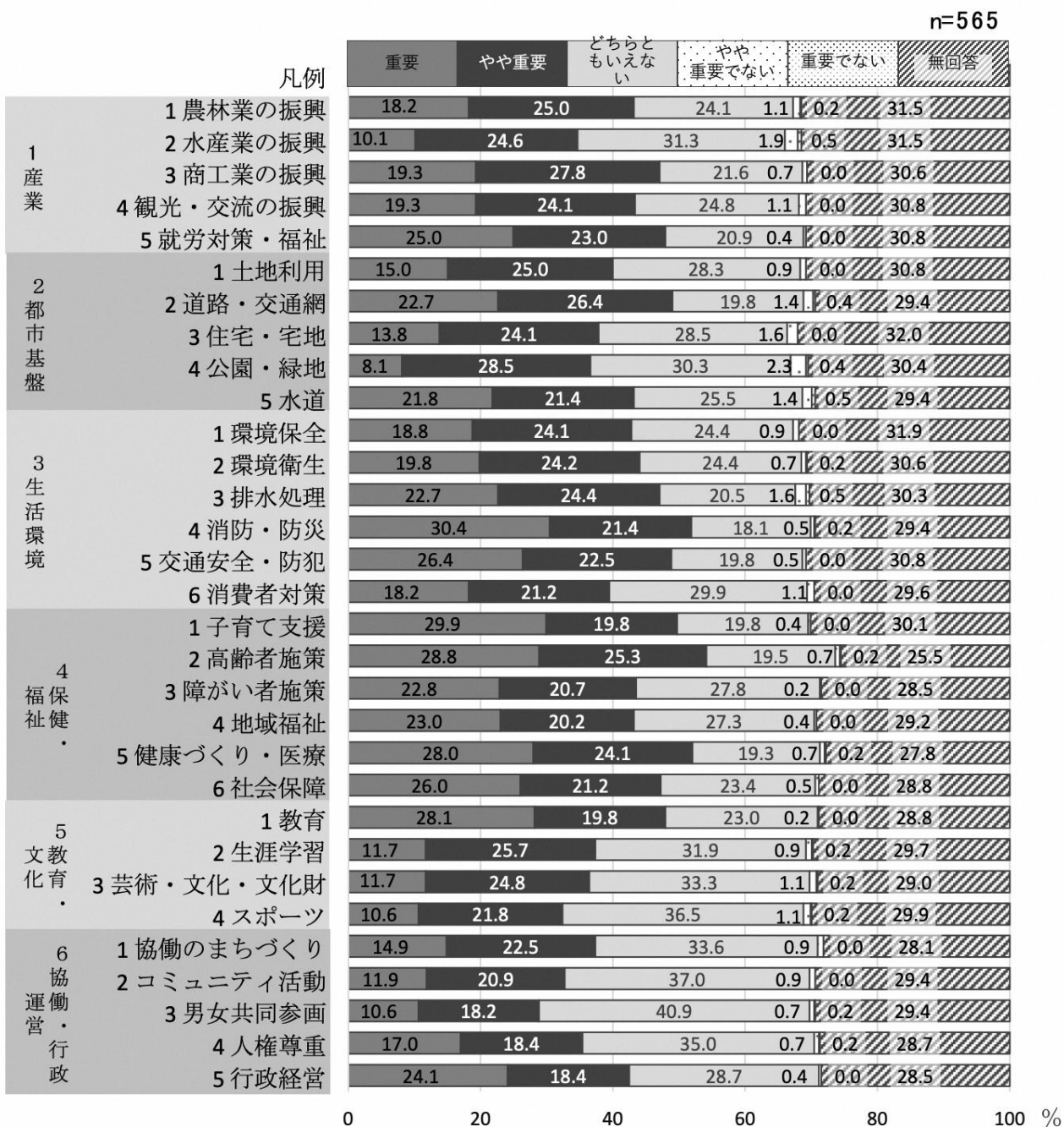
出典：田野町総合計画・総合戦略より

(5) 田野町が取り組む施策についての重要度

全施策のうち、「重要」と「やや重要」を合わせた重要度が高いと考えている施策は、「高齢者施策」で 54.2%、次いで「健康づくり・医療」が 52.1%、「消防・防災」が 51.8%となっている。

一方で、「やや重要でない」と「重要でない」を合わせた重要度が低いと考えられている施策はほとんどない。

田野町の各施策の重要度

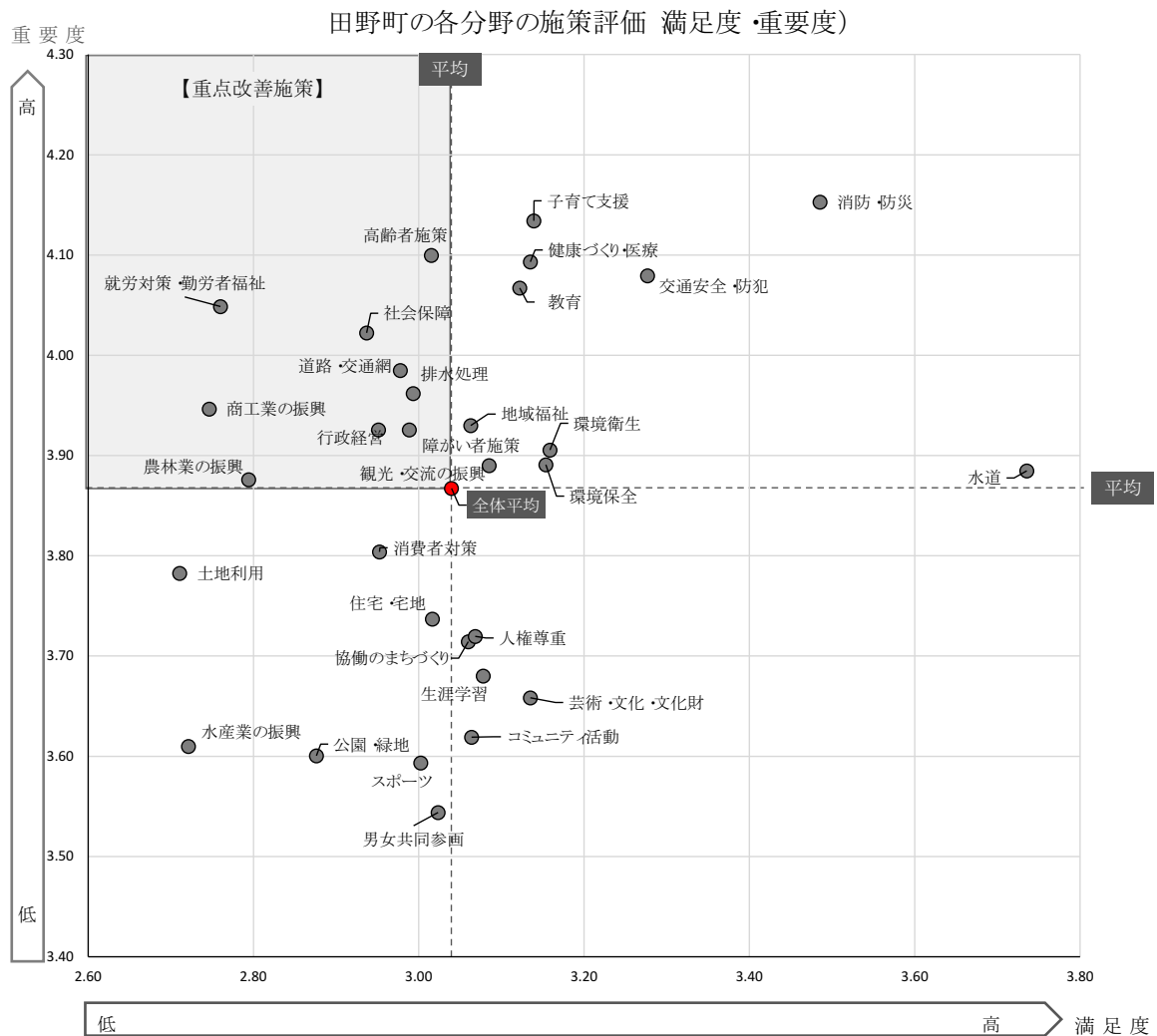


出典：田野町総合計画・総合戦略より

(6) 田野町の重点改善分野

ここでは、先の(4)、(5)で提示した満足度と重要度を1つのグラフにまとめている。横軸に満足度、縦軸に重要度を設定し、全施策を得点化しその分布をグラフにしている。それぞれの平均で分布を4つに区分けし、左上の領域を「重点改善施策」としている。この左上は、重要度は高いと認知されるものの、満足度が低い施策であるため、町として重点的に取り組んでいくべきだと考えられる施策が集まっている。

具体的には「高齢者施策」「就労対策・勤労者福祉」「社会保障」「道路交通網」「排水処理」「商工業の振興」といった施策が、重点改善施策に該当する。



出典：田野町総合計画・総合戦略より

(7) 現状分析のまとめ

本町の人口減少は継続的に続いており、このまま人口減少がつづくtownの活力が大きく低下し、日常生活の利便性が失われ、それにより人口流出が加速するという悪循環に陥る可能性があるため、人口減少対策などの各種取り組みを更に加速させていくことが求められている。

産業については、農業などが本町の基幹産業といえるが、今後は農業を中心としながらも、多様な産業の振興を推進し、魅力のある仕事があつまる町として、雇用環境と居住環境の両面から取り組んでいく必要がある。

田野町総合計画・総合戦略策定時に町民へのアンケートを実施した結果として、満足度調査では、水道などのインフラについてはある程度の満足度は高かったが、公園・緑地については満足度が高くなかった。田野町の重点改善施策については、高齢者施策に課題を残しているため、高齢者に出番と居場所があるような居住環境を検討していくことが重要である。

1-3 道の駅「田野駅屋」再整備の方向性と基本計画の位置づけ

現状分析を踏まえて、人口減少という外部環境に変化をもたらすことを前提としつつも、中芸エリアの中心地として、これ以上日常生活の利便性が失われ、それにより人口流出が加速するという悪循環に陥らないためのまちづくりが必要となっている。

町の地域課題解決に向けた施策や「田野町総合計画・総合戦略」等により取り組みが必要な各施策は、道の駅「田野駅屋」の再整備にかかる導入機能によりその多くが事業化可能であると考えているが、これら個々の施策を点で展開しても、その効果は薄く、パッケージとして展開していくことが望ましい。道の駅「田野駅屋」は、直販施設を核として、飲食などの民間機能と公共サービスの要素を持ち、一定以上の「もの・ひと・かね」を流入させつつ、地域課題の解決に向けた取り組みが可能であるため、田野町全体で見ても、道の駅施設のリニューアル以上の高い政策効果が期待できる。

そのため、道の駅「田野駅屋」の再整備においては、道路利用者や町外からの観光客だけに視点をおいたものではなく「地域の小さな拠点」として、田野町の様々な課題を解決するための機能付加に加えて、子どもからお年寄りなど、あらゆる世代が活躍する舞台となる地域拠点及び地域住民が日常的に集う地域コミュニティの場の提供・整備の実現を目指す。

また、計画が進む「阿南安芸自動車道」整備は、本町を含む県内全てにおいて事業化となり、将来の全線開通を見据え、道の駅「田野駅屋」が観光の目的地や、道路利用者にとって安芸以東における安心して休憩できる場（高速道路のサービスエリア化）となるよう、早期のリニューアルオープンを目指すものである。

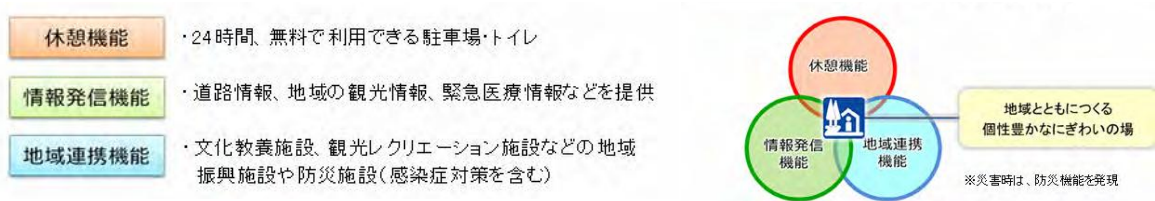
本計画は、基本構想を基にして、想定される多様な利用者の目線を統合し、導入機能などの整備方針を示すとともに、事業手法の検討を加え、今後の事業の進め方を整理することを目的とする。

第2章 道の駅再整備に関する前提条件の整理

2-1 道の駅の概要

(1) 道の駅の基本的な機能

「道の駅」の登録要件は、『「駐車場 20 台以上」「トイレ 10 器以上」「情報提供の場」等が整備されている市町村等の団体が整備した施設とされ、さらに駐車場、トイレは 24 時間利用が可能であること。』とされている。また、近年の「道の駅」に求められる基本コンセプトとして、休憩機能・情報発信機能・地域連携機能の他に、防災機能や子育て応援施設の設置が求められている。



出典：国土交通省 HP より

(2) 重点「道の駅」制度の概要

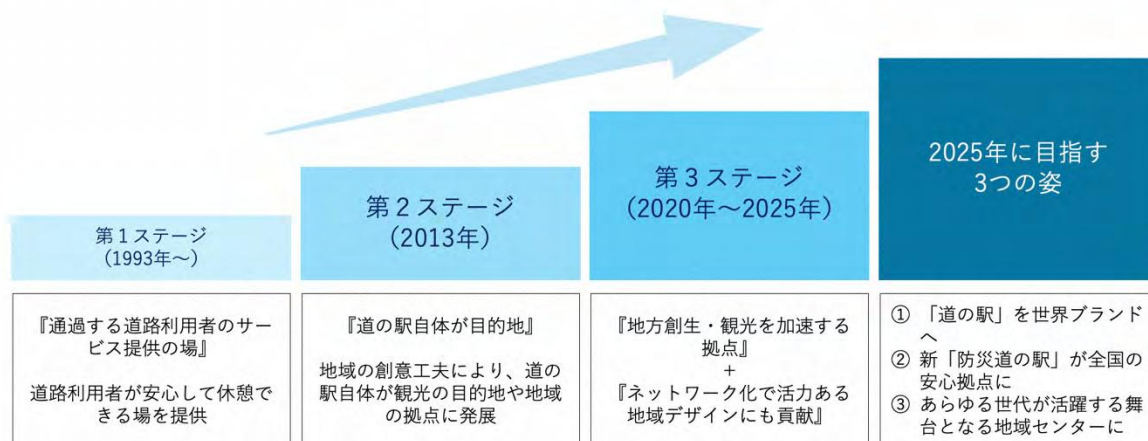
重点「道の駅」とは、「道の駅」を地方創生に資する拠点とする先駆的な取組をモデルとして選定し、関係機関が連携して計画段階から総合的に支援を行うことを目的としている制度である。再整備となる道の駅「田野駅屋」においても、この制度を意識し、重点「道の駅」への選定を視野に入れた整備の検討を行い、整備後において認定となれば、全国的なモデルとして他の「道の駅」の参考ともなり、多くの集客への足がかりとなるだけでなく、視察の受け入れ等によるスタッフの「モチベーションの向上や人材育成」にも繋がるのが期待でき、「道の駅」全体のさらなる高みを目指すこととする。

■重点「道の駅」制度の概要と選定駅数

全国モデル「道の駅」 ・平成26年度：6 駅	■地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの ・既存の「道の駅」を対象に、国土交通省が選定 ・観光、産業、福祉、防災等、地域資源の活用や地域の課題解決を図るための地域のゲートウェイや地域センターとして機能 ・設置から一定年数（10年以上）、継続的に地域に貢献
特定テーマ型モデル「道の駅」 ・平成28年度 住民サービス部門：6 駅 平成29年度 地域交通拠点部門：7 駅	■特定テーマについて、「道の駅」の質的向上に資する全国の模範となる取組を行い、その成果が認められるもの ・全国各地の「道の駅」の模範となる成果をあげている「道の駅」を対象に、国土交通大臣が認定 ・「道の駅」が有する個々の「機能」が異なる点を踏まえ、模範性を高めるために、テーマ（部門）を認定 ・全国の「道の駅」からの視察及び講師の要請に対応するなど、「道の駅」の質的向上に貢献する役割
重点「道の駅」 ・平成26年度：35 駅 ・平成27年度：38 駅 ・平成30年度：15 駅 ・令和元年度：15 駅	■地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの ・「道の駅」の整備の企画段階から、国土交通大臣が選定 ・取組の先駆性、効果、実現可能性に基づき、優れた企画を選定 ※重点「道の駅」平成26年度：35 駅のうち高知県選定：2 駅 ①道の駅 ゆずはら ②道の駅 かわうその里すさき
重点「道の駅」候補 ・平成26年度：49 駅 ・平成30年度：14 駅 ・令和元年度：15 駅	■地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの ・「道の駅」の整備の企画を対象に、地方整備局長等が選定 ・取組の具体化に向けた地域の意欲的な体制整備等に基づき選定

(3) 道の駅の「第3ステージ」について

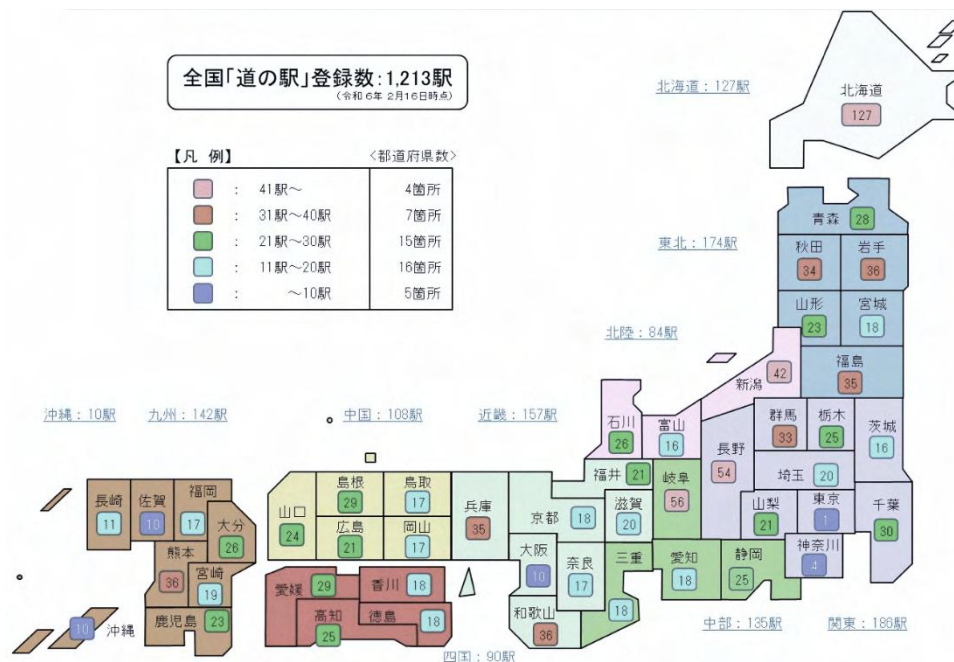
国土交通省では、1993年の「道の駅」制度開始以降、四半世紀が経過し、現在は、第3ステージまで進んでおり、より魅力ある道の駅を目指していくことが求められている。第3ステージでは、各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取組を、官民の力を合わせて加速させ「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献していくことが求められている。



2-2 近年の道の駅の動向

(1) 日本全国の状況

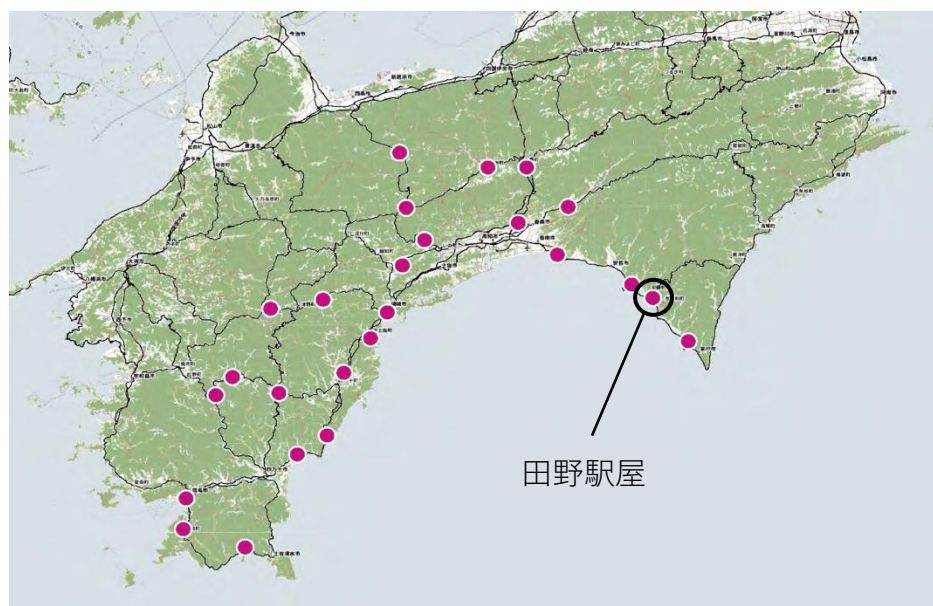
道の駅は、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに活力ある地域づくりを共に行うための「地域連携機能」の3つの機能を併せ持つ施設として、1993（平成5）年に制度が発足して、30年を越えている。当初は全国103駅から始まった本制度だが、2024（令和6）年2月現在で1,213駅もの道の駅が登録されている。こうした中、道の駅を取り巻く社会動向は、「小売」、「観光」、「流通」等多様な分野で大きく変化している。



出典：国土交通省 HP より

(2) 高知県内の道の駅





高知県全域では、25箇所（うち安芸以東3箇所）設置されている。



出典：OpenStreetMap を基に作成

(3) 道の駅を取り巻く動向



動向	概要
	<p>消費者の動向として、コロナ禍を経て、ECサイトによる取引が当たり前になっている一方、日用品や食料品は実店舗で購入する層が多く、店舗利用傾向が高いことがわかっている。</p>
	<p>インバウンド（訪日外国人観光客）は、約 2500 万人（2023 年）を突破し、いわゆるゴールデンルート以外の地方都市へも来訪者が増えてきている。四国においても、外国人お遍路さんなど幅広い層を取り込むことが求められている。</p>
	<p>物流量の増加による物流会社への負担増加に加えて、「働き方改革」の流れを受け、休息のあり方も見直しがされている。さらに、2024 年問題として、時間外労働の上限規制による輸送能力の低下もあり、より効率的な輸送ルートの確保と休憩場所としての価値が高まっている。</p>
	<p>東日本大震災以降、防災・災害に対する備えの充実が求められており、道の駅の第 4 の機能として期待されている。こうした「防災道の駅」は、自衛隊、警察、テックフォース※等の救援活動や緊急物資等の配布、復旧活動の拠点などとしての機能が期待されている。</p> <p>※国土交通省緊急災害対策派遣隊「TEC-FORCE（テックフォース）」は、大規模な自然災害時に、被害状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大の防止、被災地の早期復旧などに取り組む組織。</p>

第3章 道の駅「田野駅屋」再整備基本計画策定のプロセス

3-1 道の駅「田野駅屋」再整備基本計画策定検討委員会

道の駅「田野駅屋」再整備基本計画の策定にあたり、関係団体等からの意見及び助言を取り入れ、実効性の高い計画を策定することを目的として、道の駅「田野駅屋」再整備基本計画策定検討委員会を設置し、全4回にわたり開催した。開催内容については、下記の通りである。

回数	日付	次第
第1回	2023年8月9日	<ul style="list-style-type: none">・基本計画策定委員会の役割・今後の予定について・昨今の道の駅について・基本構想について・住民アンケートの項目について・その他
第2回	2023年12月4日	<ul style="list-style-type: none">・住民アンケートの報告及びワークショップの報告・基本コンセプトの報告・導入機能の説明・機能関係図の説明・排水検討の状況報告・サウンディングの実施について・今後のスケジュールについて
第3回	2024年2月29日	<ul style="list-style-type: none">・サウンディング・ヒアリング結果の概要報告・事業手法の検討について・施設レイアウト案の検討について・基本計画の構成内容について・今後のスケジュールについて
第4回	2024年3月29日	<ul style="list-style-type: none">・道の駅「田野駅屋」再整備基本計画（案）について・パブリックコメントについて

3-2 住民ニーズ調査

再整備の導入機能などを検討するにあたり、住民の意向確認を実施するために、道の駅田野駅屋来場者向けアンケート調査、住民向けアンケート調査、ワークショップ調査（子育て世代向け・全町民向け）を実施した。実施結果については、以下のとおり整理する。

(1) 道の駅田野駅屋来場者向けアンケートの実施結果

項目	内容
調査対象	道の駅「田野駅屋」の利用者
調査期間	令和5年7月2日（日）
調査方法	田野駅屋20周年記念イベント会場にて直接ヒアリング
協力者数	84通
質問事項	あなた自身のことについて（回答者の属性）
	道の駅「田野駅屋」の利用について
	道の駅（田野駅屋に限らず）の利用について
	道の駅「田野駅屋」の満足度について（Net Promoter Score 分析）

(2) 住民向けアンケート実施結果

項目	内容
調査対象	田野町内にお住まいの高校1年生以上（16歳以上）
調査期間	令和5年8月～9月
調査方法	郵送による配布・回収
配布数	（全体）送付数 1,000 通
回収状況	（全体）回収数 371 通 有効回収率：37.1%
質問事項	あなた自身のことについて（回答者の属性）
	道の駅「田野駅屋」の利用について
	道の駅（田野駅屋に限らず）の利用について
	道の駅「田野駅屋」の満足度について（Net Promoter Score 分析）
	道の駅「田野駅屋」の再整備について

道の駅にほしい機能

- ✓ 仲間、サークルが自由に展示等できるスペースが欲しい
- ✓ 皆が気軽に集える喫茶店等
- ✓ 高速バスの誘致や市町村の枠組みを越えたイベントの実施など高知県東部の拠点となっていくことを望む
- ✓ 田野町自体が飲食する所が少ないので、田野駅屋がせっかく集客力があるのでもっと広くして飲食もできる場所があればいい
- ✓ 営業時間も土日だけでも、もう少し遅い時間になればと思う
- ✓ 田野には安心して子どもを遊ばす公園がないので道の駅を整備するのであれば、新たな子どもの遊び場があればいいな
- ✓ 田野には安心して子どもを遊ばす公園がないので（二十三土公園ですが、広いだけで遊具も少ないし、河川が目の前でフェンスなどの囲いも無く危険。）道の駅を整備するのであれば、新たな子どもの遊び場があればいい
- ✓ 地元のものからすると、お寿司やお弁当に変わりばえせず、買い物に行くのは季節の変わり目に野菜や魚などを買いに行くぐらいで、あまり利用しない。お弁当なども日替わりなど量や種類が有ればもっと利用したいと思う
- ✓ 現金払いしかできないのは不便。他の支払い方法も検討して欲しい
- ✓ 子ども達が帰って来れる田野町となるように
- ✓ 老若男女が自然と集ってくる施設になれば
- ✓ ペット市場から SA や PA で見かけるドッグラン（車 5 台分くらいのスペース）を併設してみてもどうか
- ✓ 犬専用の水飲み場などあればペット連れのドライブするお客様増につながらないか。ペット同伴可のオープンカフェなどあればいい
- ✓ 食事をとれる所があればもっとよい。レストランでも・・・定食とか。夜の居酒屋もあればもっとよい
- ✓ 車中泊、簡易宿泊施設、テント泊スペース等、宿泊できる場所が併設されたら町外から人を呼びやすい
- ✓ 2 階を増築して、1 階は買い物、2 階は飲食・フリースペース（列車の待ち時間、学生の居場所）などにして、エレベーターがついているとなおいい
- ✓ マルシェやワークショップなどのイベントができるようなスペース。新しいことを始める人の手助けとなるような取り組みや子どもやお年寄りの憩いの場となる催しが開催できるような場所
- ✓ 今現在の田野駅屋の営業時間が夕方の午後 5 時位だと思うが、出来れば午後 6 時とか 7 時位まで営業してくれたら良いと思う。会社帰りの人も多し、新鮮な野菜、お魚を求める方も多しと思う
- ✓ イベントや情報（観光や歴史）室みたいな場所で、一目で田野や中芸地区の歴史がわかるように、小さいスクリーンで常に流れていたり、いつも観光案内人がいて、説明してくれるような場所がほしい

道の駅についてフリーアイデア

- ✓ 田野町は良いところがたくさんあるが、地元の方々がその良さに気づいていない。もっともっと田野の良さをアピールしていけば、子育て世帯や（セミ）リタイア組が移住して来てくれると思う。とても素敵な町です。大好きです。田野駅屋にもステキな地元商品がたくさんあるが、陳列の仕方などもっと工夫すればもっと売れるのと思うことがある
- ✓ 田野駅屋再整備事業に対し、広く意見を求めることが重要である。広く人材を登用する
- ✓ 再整備＝広くするというだけでは意味がないと思う。広いだけなら、狭くて賑わうほうが集客があると思う
- ✓ 新しい、リニューアルに人は集まるが、最初だけなので継続的な・・・将来性のある再整備が必要だと思う
- ✓ とても集客力のある魅力的な道の駅なので、何かもう一つアピールできるものがあれば観光スポットとしても定着し、今以上にステキな“田野駅屋”になるのではないかなと思う
- ✓ 乗り物の時間調整や買物以外に親子で集う場所があれば、駅の活性化にもなる
- ✓ 観光客や地域産物を求めて来てくださるお客様に喜んでもらえ、笑顔あふれる地域の広場、駅前を目指しコミュニケーションを大切にして維持出来る施設であって欲しい
- ✓ 私は3年前に田野へ移住し、その時に初めて田野駅屋を知った。小規模でありながらおいしいおかずがそろっているので、いつも大変お世話になっている。新しい「田野駅屋」になるのであれば、益々活気あふれる場所になることを期待している
- ✓ 市内から営業で東に来られる方は中芸地区あたりでお昼を迎えているように感じる。昼食ができる場所として、気軽に食事ができることとお弁当の拡充もされるとよりいいかなと思う。ただ、県外の人や上司を伴ってきたときに食事するところに悩まれているのは耳にする
- ✓ 町民や町外からの移住者がこの町で何かをしたい、何かを作りたいと思えるような取り組みをして頂けると自然と道の駅も活性化されるのではないかな
- ✓ トイレの前の浄化槽がとてもくさい。トイレはとてもきれいだが、なんとか改善してほしい
- ✓ 田野町だけではなく、人口減少や若い人の働き場が少ない、少子化とさまざまな課題がある。どの地域でも住民同士の繋がりがなくなりつつある。田野駅屋が拠点施設となった場合、そこで働く人は田野町住民であってほしいと思う。働き手（若い人）が町に残っていないなどの問題もあるが、今後この田野町（中芸地区）を担っていく世代の人たちと、どのように関わりを持ち続けていくか、世代交代や助けてくれる人たちを上手に育てていき、「地域が好きだから地域で働きたい」と思えるような町になってほしいと思う

<全町民対象ワークショップ>

道の駅にほしい機能

- ✓ 子ども向けイベント機能
- ✓ 高齢者向けイベント機能
- ✓ 料理教室ができる
- ✓ やりたいことを支援する仕組み
- ✓ スムーズな車の動線（駐車場）
- ✓ 農産物などの素材を活かす
- ✓ 塩のまちを活かした加工品販売
- ✓ 町民同士のマッチング（新しい商品など）
- ✓ 天井が高く光があふれる空間
- ✓ 駅のホームから直結
- ✓ 駅から見える風景
- ✓ イートイン機能
- ✓ 地域グルメの発信拠点
- ✓ 農産物・海産物が豊富な市場機能
- ✓ 作家さんの展示コーナー
- ✓ 24H 営業
- ✓ バス来場者でも入れる大きな食事スペース
- ✓ 夜にアルコールが飲める機能
- ✓ 休憩がしやすい
- ✓ 農産物生産機能

道の駅にほしい施設

- ✓ 喫煙スペース
- ✓ 地元特産品販売所
- ✓ イベントスペース
- ✓ 交流スペース（ナイトタイムも）
- ✓ ドッグラン
- ✓ レストラン
- ✓ 焼きたてパンを食べられるベーカリー
- ✓ ひとが集まることができるスペース
- ✓ 子どもが遊べる大きな公園
- ✓ イベントスペース
- ✓ 情報発信拠点
- ✓ 農産物直売所
- ✓ 綺麗なトイレ
- ✓ 温泉施設宿泊施設
- ✓ カフェ
- ✓ プール
- ✓ チャレンジショップ（新しいことを始められる場所）
- ✓ 子どもが遊べる公園・遊具
- ✓ バイク専用駐車場

道の駅についてフリーアイデア

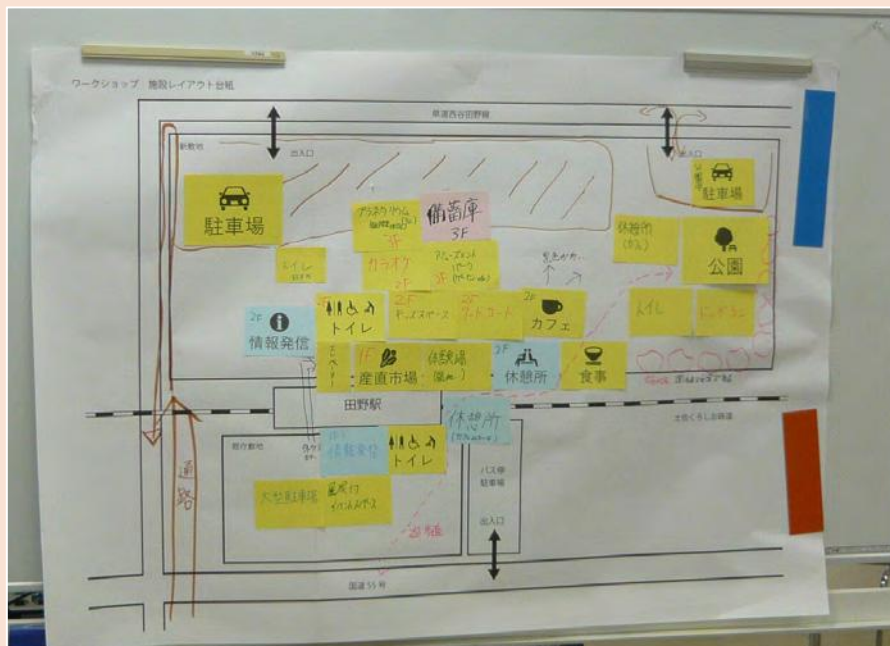
- ✓ 閉まるのが早い
- ✓ 終電まで飲みたい
- ✓ トレビの泉（もう一度来てもらう何かしらの仕掛け）
- ✓ 日本遺産の紹介
- ✓ ゆるキャラをつくる

【1班】

キーフレーズ

地域住民にとって必要な施設ができ、良い居場所が生まれたら、自然と外からも人が集まってくる。

レイアウト



機能・施設の考え方

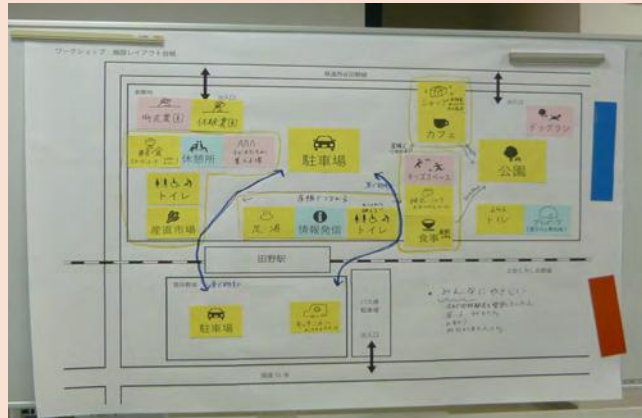
- ✓ 3階建ての建物（意図：田野駅との接続を優先的に考える）
 - 1F【みんなに開かれた場所】：産直、体験所（製塩、地域の名産など）、カフェ付き休憩スペース（電車、バスの待合）、トイレ、情報発信スペース、屋根付きイベントスペース（駐車場を兼ねる）
 - 2F【子供・若者が集える場所】：キッズスペース、フードコート、カフェ（景色の良い場所）、休憩スペース、カラオケ、アミューズメントパーク、田野駅ホームからの直接アクセス通路
 - 3F【外部の目を引く観光資源】：1組限定ホテル（プラネタリウム、インフィニティプール付き）、備蓄倉庫
- ✓ 屋外部分の活用
- ✓ 公園（囲われた落ち着いた場所）、遊歩道（安全に通行できるルート）、トイレ、ドッグラン、休憩スペース、公園専用駐車場
- ✓ 公園の端に桜の木を植え、花見ができるように
- ✓ 国道からのアクセスは一方通行とし、奥の敷地までアクセス通路をとる。出入口は県道側にする。

【2班】

キーフレーズ

- ✓ 今まで田野駅屋を愛用していた人にも引き続き利用しやすい配慮
- ✓ 現状お客さんの年齢層が高いため、子どもや若い人たちが立ち寄れる工夫を
- ✓ 町外に向けて田野町の良さをアピールできる場に

レイアウト



機能・施設の考え方

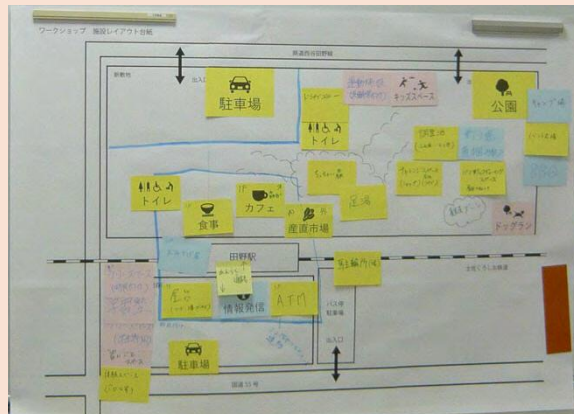
- ✓ 広い敷地であるべく歩く距離を少なくしたい。北・南それぞれの敷地に駐車場があり、電車の高架下を抜けて車や徒歩で行き来できる
- ✓ 建物が分かれる場合も屋根で繋がっていて雨が濡れず移動可能
- ✓ 平日に普段着でも立ち寄りやすい産直市場と、休日を過ごしたり町外からの友人や親戚をもてなせるレストランなどおしゃれなエリアを分ける
- ✓ おしゃれなショップに、お土産が包装できたりプレゼントにできるような商品が並んでほしい
- ✓ 広い公園に、ドッグランを設けて子どもたちを安全に遊ばせられる。公園から近い位置にカフェやレストランがあり、テイクアウトをして公園で飲食できる
- ✓ グランピング（常設の素泊まりテント）エリアがあり、旅行者が滞在できる
- ✓ 24時間だれでも利用できるトイレがある
- ✓ 屋内キッズスペースには、授乳やミルク作り、おむつ替えができる広いスペースがほしい（ママだけでなくパパも使いやすい仕組みに）
- ✓ 足湯を設けて旅行者や高齢者にやさしい場をつくる
- ✓ 足湯やトイレの近くに情報発信コーナーを設けて、足湯に浸かりながら情報を得たり、トイレに寄った人が立ち寄れる
- ✓ 町民農園（小中学生やお年寄りなどが日々お世話をする）と、自分で収穫した野菜を買って帰れる体験農園をつくる
- ✓ 産直市場の近くには、これまでの庶民的な良い部分を残したい
- ✓ 軽食コーナー・休憩所を兼ねた広いスペースを確保して、子どもたちが休日や放課後に集まったり宿題をしたりできる居場所をつくる
- ✓ イベントが開催できるように、キッチンカーが入れるスペースを設ける

【3班】

キーフレーズ

- ✓ 駅舎近くに町民向けの施設を
- ✓ 駅舎を囲む形で3階建ての建物を作る
- ✓ 新敷地の中心は緑化空間を作り広場と駅を繋ぐ
- ✓ 高齢者向け/子ども向けのスペースは駐車場の近くに配置

レイアウト



機能・施設の考え方

- ✓ <駅舎の建物>
- ✓ 駅舎の一階にカフェと食事スペースと産直を作る
- ✓ 3階に連絡通路を作り線路を超えて移動できるように
- ✓ 駅舎には高校生向けの学習スペースや習い事の場所など目的を持った人向けの施設を
- ✓ ATMを設置する
- ✓ <新敷地の広場>
- ✓ 釣り堀を作り調整池の役割も兼ねる
- ✓ 屋根付きのスペースを作りパブリックビューイングやイベント等の場所として使う

(4) ヒアリングの実施結果

アンケートやワークショップだけではなく、道の駅に関係する事業者、団体に直接ヒアリングを実施した。

(実施結果)

No.	区分	企業・団体名
1	観光	観光事業者
2	商業	水産卸売事業者
3	地域	地域活性化団体
4	商業	小売事業者
5	医療	医療機関
6	教育	教育機関 A
7		教育機関 B

道の駅にほしい機能

- ✓ 安芸・室戸エリアは、安芸市が中心と認識している。東洋町でも宿泊施設の立ち上げのサポートにコンサルティングをしたことがあるが、レジャー中心になるのではないかと。実際に、事業をするのであれば、県内者向けだけではなく、県外者向けへの商品ラインナップを用意する必要がある。
- ✓ 観光客向けの商品も対応できるが、客からすればどこに行けば手に入るかわからない。ふるさと納税の品とも連携できるようにしてほしい。
- ✓ これから人口が減ってくるので、日常客と観光客両方をしっかり取り込むべき。再整備の際は店舗の大きさは重要。賑わって見えるサイズ感が大切。大きすぎるとガラガラで人が無いような施設に見えるのではないかと。
- ✓ お昼を車で食べている人もいるので、外でテイクアウトで食べられると良い。気分転換にもなるので、従業員の生産性にもプラスに働く気がする。駅広場がテイクアウトしたものを食べられるようにする方が良い気がする。
- ✓ 中芸高校は、安芸市や室戸市から入学することが多く、他地域から来ているので、田野町や周辺のこの地域のことを知るということを大事にしている。中芸学という総合の学習の時間は、35時間/年間で、年間授業であるが、夏の時間などを使いながら集中的に実施したりしている。
- ✓ 集まったり宿題をしたりできる居場所をつくる
- ✓ キッチンカーが入れるスペースを設け、イベントが開催できるように

道の駅にほしい施設

- ✓ 観光連携について。定置網の漁体験やホエールウォッチングは過去もしていた。田野のバスを使って港までの足を用意し、体験イベントを展開できればおもしろい。農業体験など、今後できそうなアイデアをあらかじめ持つておくことが大切。アイデアをもとに必要となる場を用意すべき。バーベキュー・カツオの薫焼き体験などができる屋根付きの小屋、イベントスペースなど。
- ✓ 土曜日に、未就学児・就学时含めて、こどもを預かってくれるところのニーズがある。移住者は、親族がいないので預かってくれるかたがない状況。また、お隣さん関係も希薄化しているので、コミュニティの再構築は重要な視点

道の駅についてフリーアイデア

- ✓ 道の駅は、子どもと一緒にいける場所があれば良い。高知市から1時間ぐらいの場所にあるのは、わりと悪くない。田野町で公園広場なども備えて、滞在時間が長く取れるのであれば高知市からも集客は可能だと思う。時間とすれば、2時間ぐらい滞在できると良い。
- ✓ 人口が減るけど、道の駅は広げるということに疑問がある。新規の道の駅に対して、どれだけコストがかかり、田野町にはどれだけの費用負担がかかるのかも明らかにしてほしい。
- ✓ 定期的なイベント（マルシェやフリーマーケット）をできるようにしてほしい

3-3 事業者サウンディング調査の実施結果

2023年12月11日～2024年1月12日の期間でサウンディングを実施した。合計5社からサウンディングの申し込みがあり、意見交換を行った。なお、日程調整の都合上、1月12日を超えて、実施期間を延長している。本サウンディングでは、大きく分けて、4つの大項目（（1）現状の道の駅の強み・課題について（事業地のアクセス性・広さ・収益性について）、（2）望ましい整備運営方式について（3）道の駅田野駅屋に導入することが望ましい機能・ターゲットについて（4）その他）に分けて実施した。

（実施結果）

	合計
運営事業者	5社
合計	5社

（1）現状の道の駅の強み・課題について （事業地のアクセス性・広さ・収益性について）

- ✓ 商圈にそこまで拘っていない。道の駅単体でコストコントロールすることで道の駅を経営できることを考えている。
- ✓ 田野駅屋の売り上げを見ると、もっといけると感じる。立地がとても良い。いまの場所を改良するだけでも1.5倍でもいける。東部に行くすべての車が田野駅屋の前を通る、とても有利な場所。
- ✓ 田野駅屋を運営することはおもしろいと思っている。産直の魅力が大きい。食堂も周囲に飲食店が無いので、優位性がある。高規格道路も田野から北川村にいくので、室戸への拠点になる。
- ✓ 単純に考えて、今でも多くの人 coming。駐車場が整備できれば、それだけでも収益が増える。

(2) 望ましい整備運営方式について

- ① 町で設計、建設した後に指定管理者を公募する方式(従来方式)
- ② 予め指定管理候補者を公募・選定した後に、当該選定された指定管理候補者の意見を参考に設計に取り掛かる方式(指定管理候補者事前選定方式)
- ③ 設計と運営を一括発注する方式
- ④ DBO 方式もしくは DB 方式
- ⑤ PFI 法上の官民連携手法

- ✓ 予め指定管理候補者を公募・選定した後に、当該選定された指定管理候補者の意見を参考に設計に取り掛かる方式（指定管理候補者事前選定方式）が良い。機能が決まってきた段階で適宜意見交換させていただき、譲れない部分などあればそこを協議させていただくぐらいでも構わない。
- ✓ 整備方式は DBO 方式が一番良い。運営と設計を一括にすることは、ありえると思うが、希望する事業の優先順位は④DBO③設計運営一式である。
- ✓ 事業手法については、PFI（BTO）を考えている。代表企業を運営事業者とさせて頂きたい。運営の年数で 20 年継続などの条件があると、参加しづらい。PFI ならば 1 つの会社でできるかもしれないが、DBO なら上記の方法。
- ✓ 民間事業の運営ノウハウを反映した設計が可能となる②方式での施設整備が望ましい。

(3) 道の駅田野駅屋に導入することが望ましい機能・ターゲットについて

- ① 公共性の高い施設（町民交流活動機能、学習体験機能など）
- ② 市場性の高い施設（宿泊機能、産直機能、ドッグラン機能など）

- ✓ 公共性という部分が入ってくると、事業の採算という尺度だけではなく。行政側の財政負担が続くという意識も持っていただくのであればよい。事業性+公共性までを広くカバーして事業を行うことを求められると苦しい側面がある。
- ✓ 公共性の高い施設（子育て・公園）の運営については、他の事例で、子育てスペース等を設けて若者を呼び込むことはしている。
- ✓ 公園を利用した事業については、車中泊+RVパーク、バーベキュー施設などが考えられる。公園があると滞在時間が増えるので良い。あと、目を引くトイレが目的地になる。予算に余裕があればトイレ整備に力を入れられたら良い。例)刈谷サービスエリアのデラックスタイレ。
- ✓ ドッグラン機能は、放し飼いでできるようになれば意外と遠くから集客できる可能性はある。
- ✓ 町民交流施設機能については、町民が定期的に道の駅に来訪する機会創出という観点で、導入する価値はある。
- ✓ 宿泊機能強化は、四国全体共有の課題であるため、機能としてはあり。産直は必須。ドッグラン機能も立ち寄り機会の増加の観点からあり。
- ✓ 宿泊施設があると、消費が全然違う。飲食需要がついてくる。利益率も良い。レストラン+宿泊施設の組み合わせも良い。一棟貸しなどのニーズはあるはず。一方で、この敷地ではオーシャンビューなどの眺望が無いので、グランピングなどの特色付けが必要。

(4) その他

- ✓ 予めハードを広げすぎた場合、商品を埋めきれず空きがでてしまうことが大きなリスク。将来まで見据えて、どこまで道の駅に品を揃えられるかの見定めが大事。
- ✓ 現状の道の駅について、アクセス性については問題無いが、高規格道路が整備された際インターチェンジの位置等の関連によって影響を受けることを懸念している。道の駅が目的地となる整備が必要。ある道の駅は高規格道路から離れているがわざわざ立ち寄りたいたいと思うような施設。そのような施設になれるかが大切。
- ✓ テナントを誘致して収益を得ることも当然考えなければならない。パークウエディング・一棟貸し宿泊施設の運営を別途運営企業がする想定もあり得る。
- ✓ 温泉との連携ができれば良い。東北では道の駅と温泉施設の連携が多い。
- ✓ 鉄道事業者との連携は、土地利用上の観点からも、事業計画段階から役割、機能に関する議論、鉄道事業者サイドから見たニーズについて、把握し、整備に反映していくことが望ましい。

3-4 導入機能の整理

住民ニーズ調査と事業者サウンディング調査を踏まえて、導き出された導入機能を下記に整理した。

道の駅の基本機能	町民に向けた機能
<p>駐車場</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 国道 55 号からの進入等の整備 ✓ 大型車も止められる広い駐車場 ✓ 北側から県道へ抜ける道 ✓ 搬入口と一般駐車場を分ける <p>トイレ</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 清潔なトイレ ✓ 駅屋の中にトイレを設置 ✓ 洋式トイレを増やす ✓ 和式トイレは残す ✓ トイレを綺麗にしたら立ち寄る人が増える <p>情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 周辺各町村との 1 日半コースの観光情報発信拠点 ✓ 田野や中芸地区の歴史がわかる映像展示 ✓ 観光案内人が説明してくれるような場所 ✓ 日本遺産の魚梁瀬森林鉄道の紹介 ✓ 足湯付きの情報発信施設コーナー <p>休憩施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 外にテーブルとイスを置いた、観光客の休憩がとれる場所 ✓ ゆっくりと座ることの出来るスペース ✓ ちょっとした休憩スペース ✓ 雨に濡れず過ごせる屋外 ✓ 電車通学している生徒がゆっくりするスペース 	<p>子育て支援施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 子供のための遊具 ✓ 授乳やミルク作り、おむつ替えができる広いスペース ✓ ママだけでなくパパも使いやすい仕組み ✓ 安心して子どもを放しておける場所 ✓ 本だけを置いておく図書コーナー ✓ 雨の日も遊べる場所 ✓ ふわふわドーム ✓ 遊び場ができると、こどもの笑い声が響いて、雰囲気良くなる ✓ 子育て施設は独立しているよりも、道の駅建物に併設している方が管理しやすい <p>コミュニティスペース</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 仲間、サークルが自由に展示等できるスペース ✓ 高校生向けの学習スペースや習い事の場所 ✓ 若者が遊べる場所（カラオケ、ゲームセンター） ✓ 利用されていない例が多いので、誰が何のために利用するのかを考えてつくるべき ✓ 中芸高校での社会学習（中芸学）でまとめたものを掲示する場 <p>加工場・調理室</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 農産物などの素材を活かす ✓ 料理教室 ✓ 塩づくり体験ができる場所 ✓ 魚の加工場は設備が過剰になるので不要 ✓ 地元の特産を体験する場所 ✓ 作業の様子が感じられる場所

人を呼び込む機能

飲食施設・カフェ・イトイン

- ✓ 皆が気軽に集える喫茶店
- ✓ 独立した食堂
- ✓ ペット同伴 OK のオープンカフェ
- ✓ 地域グルメの発信拠点
- ✓ 団体客でも入れる大きな食事スペース
- ✓ 夜にお酒が飲める場所
- ✓ 友人や親戚をもてなせるおしゃれなレストラン
- ✓ テイクアウトをして公園で飲食できる機能
- ✓ これまでの庶民的な良い部分を残したい

直販施設

- ✓ 広く見渡ししやすい店舗
- ✓ 農産物・海産物が豊富な市場機能
- ✓ どこまで道の駅に品を揃えられるかの見定め
- ✓ 今の田野駅屋の倍あれば十分
- ✓ 売場と食べる場所が隣接しているべき
- ✓ 賑わって見えるサイズ感が大切

チャレンジショップ・アンテナショップ

- ✓ 塩のまちを活かした加工品販売
- ✓ 焼きたてパンを食べられるベーカリー
- ✓ 作家さんの展示コーナー

イベントスペース

- ✓ マルシェやワークショップができるスペース
- ✓ 子供やお年寄り向けの催しが開催できる場所
- ✓ キッチンカーが入れるスペース
- ✓ 薫焼き、活魚販売などできる屋根付きスペース

宿泊施設

- ✓ 1組限定ホテル
- ✓ 見晴らしの良い、プールのある高級ホテル
- ✓ 宿泊部門で収益を補う
- ✓ 宿泊施設があると飲食需要もついてくる
- ✓ お遍路さん向けの宿泊施設
- ✓ グランピングなどの特色付けが必要
- ✓ 宿泊と温泉の組み合わせ
- ✓ 地域の観光資源とセットで目的地になれば需要がある・チェックイン機能だけを道の駅で行い、町中の空き家を宿泊室として利用する「分散型ホテル」

公園

- ✓ くつろぐことのできる緑の憩いの場
- ✓ 安心して子どもを遊ばせられる大きな公園
- ✓ 駅の近くの広い公園
- ✓ 公園の端に桜の木を植えて花見ができるように
- ✓ キャンプができる公園
- ✓ 敷地面積を大きくし、滞在時間を長くする
- ✓ 車中泊+RVパーク、バーベキュー施設
- ✓ 広いドッグラン

災害対策機能	その他機能
<p>遊水地</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 他事例では遊水地にある駐車場は訴訟のリスクがあるため閉鎖している ✓ ハード面、ソフト面双方の対応が必要 <p>高台避難路（遊歩道）</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 一部3階建てにして津波避難場所とする ✓ 避難場所への誘導標識を設置 ✓ 病院の患者さんのリハビリコース 	<p>喫煙所</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 喫煙所は少し離れた場所に設置 <p>ATM</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 使いやすいATMコーナー <p>自動販売機</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 冷凍自動販売機は商機になる ✓ ドリンクにこだわらない多品目の自販機 <p>建物の立地・景観</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 国道沿いの好立地の場所に収益施設があるべき ✓ 建物が高架の奥になった場合、シンボルみたいなタワーがあると良い ✓ 新施設を高架の北側に整備することについては駐車場が安全になり問題ない ✓ 照明計画が重要、シンボルとして品よく光る建物 ✓ 夜は町が暗いので、夜見たときの建物の顔が綺麗であればよい <p>建物の可変性</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 用途の切り替えができる建物
交通結節機能	
<p>駅前広場</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ごめん・なはり線との連携 ✓ 乗り物の時間調整や買物以外に親子で集う場所 ✓ 子どもが遊べる広場 ✓ 小さい森があるような広場 ✓ イベントなど、何でもできる外の広場 ✓ 庇と、街路樹を植えて日陰をつくる <p>駐輪場・レンタサイクル</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ サイクルツーリズムの立ち寄り拠点としての受け入れ環境を作る 	

3-5 再整備のコンセプト・基本指針

これまで実施した住民ニーズ調査、事業者サウンディング結果を踏まえて、再整備のコンセプト・基本指針を下記のとおり設定した。

集い・学び・楽しみながら あらゆる世代が活躍できる道の駅



基本指針

集う 田野町で町民や来訪者が地域を越えて交流できる道の駅

駅前広場や公園、休憩スペースなど町民や来訪者問わず、居心地良く過ごすことができる場所としての道の駅を目指す。



学ぶ 田野町で学習でき・中芸エリアの魅力を学び・学び合いができる道の駅

子どもなどの学習スペースや町民が新しいことを始めるチャレンジショップ、来訪者の体験機能など、町内・町外問わず、学び・学び合える機能を備えた道の駅を目指す。



楽しむ 田野町で日常的・非日常的な買い物・飲食が体験できる道の駅

道の駅の中心的な機能である「買い物」や「飲食」、「エンタメ」を楽しみながら過ごすことができる場所としての道の駅を目指す。

